

「放送サービスの未来像を見据えた周波数有効活用に関する検討分科会」の検討状況について

総務省

平成30年4月25日

n 1月に設置後、これまでに4回の会合を開催し、有識者のプレゼンを中心に実施。

1. サービス提供の観点から見た放送の将来動向

- l 「4K / 8K放送の取組状況」(放送サービス高度化推進協会)
- l 「通信・放送融合型サービスの動向」(野村総合研究所)
- l 「放送サービスの高度化に向けた今後の展望」(中村秀治構成員(三菱総合研究所)) 等

2. 社会的役割の観点から見た放送の将来動向

- l 「民主主義社会における放送の役割・機能」(宍戸構成員(東京大学大学院教授))
- l 「公共放送NHKの目指す社会的役割」(日本放送協会)
- l 「信頼されるメディアとしての放送」(札幌テレビ放送) 等

3. ネットワーク・インフラの観点から見た放送の将来動向

- l 「放送用周波数の有効利用」(高田構成員(東京工業大学教授))
- l 「映像配信によるネットワーク影響と5Gにおけるサービスイメージ」(NTTドコモ)
- l 「固定ブロードバンドネットワークの現状と課題」(三菱総合研究所) 等

n 第5回(4月開催予定)以降、一部のプレゼンの積み残しを実施するとともに、取りまとめに向けた議論を開催。今夏(6月目途)までに一定の方向性を得る予定。

日時:平成30年1月30日(火)13:00~15:00

議題:「4K/8K放送の取組状況」(放送サービス高度化推進協会)

...4K8K衛星放送の周知状況と普及促進策について、放送サービス高度化推進協会や関係業界の取組み状況等

「通信・放送融合型サービスの動向」(野村総合研究所)

...国内の放送事業者において、ハイブリッドキャストなどの通信・放送融合型サービスを提供している先行事例を紹介

...米英の放送事業者において、ネット配信やプラットフォームの共通化を通じて、視聴データの活用等に積極的に取り組んでいる例を紹介

「放送サービスの高度化に向けた今後の展望」(中村(秀)構成員)

...メディアの価値や信頼度、コンテンツの発展可能性やネット融合の発展可能性について

「放送用周波数割当ての現状」(事務局)

...地上デジタルの周波数について、SFN技術の利用やホワイトスペースの活用によって、周波数を有効利用

「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」(事務局)

...若者を中心にインターネットの利用が増加しているが、メディアとしての信頼性や重要性では、ネットに比べてテレビが依然として高い水準

関連する主な発言内容

諸外国において、映像サービスの構造変化やオールIPの流れが見られる中で、我が国の対応が問われているのではないかと。

通信と放送の融合といっても、マルチキャスト配信のような仕組みが通信全体に入っていない限り、有線と無線は依然として異なるものとして取り扱うべきではないかと。

経済合理性の観点からは、IPネットワークで放送と同等のサービスを提供していくことは簡単ではない。一般的な認識よりも、現行の光ネットワークにゆとりはないという感覚。

特に通信側の技術が大幅に進歩している状況で、最適なコンテンツ伝送のあり方について議論が必要

技術的に可能な方策をすべて採用するわけではなく、サービスごとの利用実態を踏まえて、放送サービスを回線を逼迫させてまで通信で代替する必要があるのか等について議論していく必要がある。

日時:平成30年2月20日(火)10:00～12:00

議題:「視聴者から見たメディアとしての放送」(奥構成員)

...若者に対するテレビのリーチは減少傾向にあるものの、受動的な情報収集を行う層(メディア低関与層)には引き続き訴求

...テレビは依然として「頼りにされる」重要な情報源であり、広告媒体としても「ブランディング」「イメージ向上」等に高評価を得ている

「諸外国等における放送の位置づけ」(三菱総合研究所)

...諸外国における「メディア接触状況比較」、「メディア別信頼度と放送メディアの位置付け」、「フェイクニュース対策」について説明

「信頼されるメディアとしての民間放送」(日本民間放送連盟)

...地上放送事業者は、災害報道を初め、地域情報の発信・取材主体として公共的役割を担っている。地域番組に対する視聴者の評価も高い

...あまねく受信のため、条件不利地域を含めて中継局を全国に設置するとともに、災害時のバックアップ等確実な放送体制を構築

「インターネット・トラヒックの現状」(三菱総合研究所)

...国内外の総トラヒック量は年々増加しており、映像トラヒックの増加によって、今後さらに増大すると予想

「規制改革推進会議における検討状況」(内閣府規制改革推進室)

関連する主な発言内容

若年層は身の回りのことを「ニュース」と呼び、ブログ等を「頼りにするメディア」と評価している一方で、社会的・経済的な情報のソースが新聞やテレビであることは認識している。調査結果には、年代間で認識の相違がある点に注意すべき。

テレビは地域独自の最適な配信網を構築しており、放送とネット双方の特性を見ながら、地域で見たい信頼性の高いコンテンツをどのように人々に届けるか考える必要。

ローカル局には、番組制作や報道を通じて地域の問題を共有し、解決策を探るという役割がある。

人口減少により地域情報の確保が課題となっている中、ローカル局は放送事業に限らず、地元でのイベント等を通じた文化・情報の発信拠点となっており、地方において大きな役割を果たしている。

日時:平成30年2月28日(水)10:00~12:00

議題:「放送の社会的役割を支える制度と原理」(曾我部構成員)

...放送法は、集中排除原則や外資規制等の構造規制、自主的な規制としての番組規律を規定しており、これに基づいて放送事業者が自律によって基本的な情報を提供することにより、個人の自律の促進と民主社会の維持発展に寄与

...フェイクニュース等の課題を踏まえれば、自由競争だけでは表現の自由の目的は達成されず、信頼されるメディアの政策的な維持が必要

「民主主義社会における放送の役割・機能」(穴戸構成員)

...放送は、同報性のある信頼される基幹メディアとしての公共性を有しており、メディア環境が変化する中でも、社会インフラとして引き続き重要

...放送事業者は、番組編集の透明性・説明責任、視聴者との絆、関係事業者との連携等を通じて、創意工夫による発展を目指すべき

「通信放送融合2.0」(中村(伊)構成員)

...融合が進まないのは、制度ではなくビジネスの課題、ネット配信のプラットフォームの共通化等により、マルチデバイス対応等を強化すべき

「社会的役割の観点から見た、放送の将来動向～広告会社視点～」(博報堂DYメディアパートナーズ)

...メディア環境は変化しても、情報の信頼性や地域情報の提供主体として放送の役割は大きく、今後、さらなる付加価値化や多様化が必要

「公共放送NHKのめざす社会的役割」(日本放送協会)

...NHKは、災害報道を含む正確・公平な放送、質の高いコンテンツ、地域社会へ貢献等の公共的価値を維持・発展させていく

「信頼されるメディアとしての放送」(札幌テレビ放送)

...ローカル局は災害報道等において地域情報発信の要であり、ネット時代にあってもテレビを中核にサービスを行っていく

「VHF帯の利用に係る調査等の実施結果」(事務局)

関連する主な発言内容

「信頼性がないメディアに広告はつかない」というのは広告の大原則で、民放にとって一番大事な部分。

フェイクニュース等が問題化する中、取材力・編集力を持つ伝統的なジャーナリズムを守る必要がある、そのような人材を育て続けていくことが重要。放送インフラを守るためには、現行の外資規制が適切。

放送の信頼性は、番組のみならず技術やビジネスの信頼性等すべてがあって成り立つ。

外資規制を含めた資本規制を緩和することの課題について検討が必要。

日時:平成30年3月16日(金)16:00~18:00

議題:「放送用周波数の有効利用」(高田構成員)

...地上テレビ放送の周波数は、SFN技術やホワイトスペースの活用等により有効利用しているが、技術開発による一層の効率化が課題

「放送の高度化に関する研究開発」(総務省、NHK、関西テレビ放送、TBSテレビ)

...地上放送の4K・8K実現に向けた研究開発について、現行の2K放送と周波数を共用する技術の実現に向けた取組状況について説明

「固定ブロードバンドネットワークの現状と課題/諸外国等における放送事業の外資規制」(三菱総合研究所)

...放送番組のネット配信について、伝送コストを比較すると放送が通信よりも安価であること、インフラ面で技術的課題があること等を説明

「映像配信によるネットワーク影響と5Gにおけるサービスイメージ」(NTTドコモ)

...モバイルによる4K・8K視聴には、トラフィック上の影響を中心として多くの課題があり、費用対効果を考慮したサービス検討が必要

...同時配信の詳細検討を進めるにあたり、需要予測やビジネス性、固定網との役割分担といった点を明確にすることが必要

関連する主な発言内容

ホワイトスペースは現在、エリア放送等で利用されているが、さらなる高度化に向けて研究開発が必要。

通信・放送の融合やハード・ソフト分離について、現行制度では可能であり、経営上の選択肢。今後の対応方針として、現状維持、補助金や実証実験による環境整備、制度改正による強制移行がある。放送用周波数は既に有効活用しており、通信は料金が高く5G導入により激変する見込み。これらの状況を見据えてどの選択肢を取るか判断する必要。

2040年の放送の未来像を見据えて、5G以降の通信技術の発達や地方のコンパクトシティ化などの環境変化や技術の進展も視野に入れながら、どのような技術を使って良質な番組をユーザーに届けるのが相応しいか議論すべき。

通信と放送では、多数の者が一度に視聴するキラーコンテンツなら放送の方がよいが、マイナーな番組なら通信の方がよい。今後、通信と放送の特性をうまくつなげて新しい技術が進展することを期待。

放送の未来像について、可能な技術を全て使うのではなく、視聴者のニーズに応じて方法を選択すべき。コンテンツの品質は引き続き維持するべきであり、投資によって構築した放送インフラを有効に活用すべき。